

佐久産直センター

所在地 長野県佐久市安原

視察日 2016年10月7日(金)

主な取扱品目 りんご、ズッキーニ、プルーン、いんげん、きゅうり、
ほうれん草、小松菜他

佐久産直センターは、1963年佐久中央果樹組合として発足、1992年より農事組合法人 佐久産直センターを設立された。りんごなど果実から開始され、1993年からはレタス・ほうれん草等の野菜を生産するようになる。近年は若い生産者も増え、ズッキーニやコールラビなどの栽培が進められている。

害虫に弱く作りにくい紅玉を生産し続けていることも、特徴の一つである。

現在、生産を行う第一次産業、食品加工の第二次産業、流通・販売の第3次産業を行う総合的結合を図る第6次産業を進めている。

商品の 特徴



りんご : つがる、紅玉、さんさ他

ミニトマト : 5色

ズッキーニ : 60万本

ポップコーン : 2000本→来年3500本予定

コールラビ : 6000本→来年10000本予定

プルーン、いんげん、きゅうり、ほうれん草、小松菜他ジュースやジャム等の加工品も含め多品目



生産者の コメント

果物の産直を中心に、レタス・ほうれん草などの野菜の産直に拡大。佐久高原は年間降雨量も少なく、冷涼な気候のため病害虫の発生が少なく、農薬の使用を極力抑えた栽培を実践しています。また、昼夜の温度較差が大きいので、食味・食感の良い果実を生産しています。さわやかな佐久高原で育ったおいしい果物と野菜お届けいたします。



参加理事の コメント

毎年2～3人の新生産者や、来年の野菜の生産量が3～6倍になる見込みがあるというのは、正しく積極的な営業活動の賜物で、素晴らしいと思いました。販路の開拓は大変なご苦労と想像しますが、都心部にも行きやすく、スーパーやデパートで有機栽培や珍しい野菜を好んで買われる方も多くなって来ているのではないのでしょうか。販路が開かれ、部会があるから生産者は作りたい品種を安心して積極的に作れるのだと思いました。来年は野菜の出荷量が果樹と並び再来年には野菜が上回る見込みとか。若い生産者に作りたいものを作ってもらう所からスタートするという方法が、様々な面で今の時代に合致しているのかも知れません。栄養価の高い珍しい野菜をしがの組合員にも食べて貰いたいと思いました。

